

欽ちゃん親戚・萩本愛里、ビーチテニス転向へ

[スポーツ報知](#) 5月6日(金)8時3分配信

[前の写真へ](#)



ビーチテニスへの挑戦を表明した欽ちゃんの親戚、萩本愛里は、まぶしいビキニ姿でポーズを決めた

お笑い界の大御所、萩本欽一(69)の親族で、女子プロテニス選手の萩本愛里(24)=フリー=が、2016年リオデジャネイロ夏季五輪の公開競技候補に浮上しているビーチテニスへの転向を視野に本格挑戦していたことが5日、分かった。ビーチテニスはビキニ姿でプレーする砂上競技で近年は人気も急上昇中。競技普及に燃える愛里はスポーツ報知の取材に、ビーチバレーの浅尾美和(25)=エスワン=にライバル宣言し、“新ビーチの妖精”に名乗りを上げた。

目にもまぶしいビキニ姿でラケットを構える愛里は、実は“リアル欽ちゃんファミリー”だ。欽ちゃんは愛里の祖母の弟にあたる。この日は、東京・お台場でのビーチテニスのイベントに参加。「私も目立ちたがり屋さん。そこんところは、欽ちゃんおじさんと同じ血が流れてます。得意技ですかあ？ も～っちろん、欽ちゃん走りショットお☆」と、サーブ満点の自己紹介をした。

モデルのSHIHO似で、大きな瞳にキラリと光る健康的な白い歯が印象的な24歳。身長165センチ、体重52キロとテニスで鍛えた肉体美が、ビーチではひと際目立つ。テニスは12歳で始め、20歳の時に日本テニス協会のプロ登録選手となり現在も現役。欽ちゃんからは会う度に「自分の実力ではい上がってこい！」とあった激励されるという。

日本テニス協会の日本ランキングはシングルス30位、ダブルス26位が自己最高。08年には現役復帰したばかりのクルム伊達公子ともダブルスで対戦し、負けたこともある。ビーチテニスには「いろんなものに挑戦したい」と、転向も視野に09年の国内大会から不定期で出場しており、競技普及に尽力。ビーチテニスの国内ツアーは今年で4年目。年間10試合前後が行われ、日本ビーチテニス協会によれば世界的には16年リオ五輪の公開競技候補に挙がるほど人気が上がっているという。

日本で知名度の高いビーチスポーツといえばバレーボールだ。代名詞的存在の浅尾には愛里も意識。「浅尾さんとライバルになればステキ いっしょにビーチを盛り上げていきたいですね」と強カライバル宣言した。愛里の次戦は14日開幕のツアー第2戦(神奈川・葉山町一式海岸)。新ビーチの妖精に注目だ。

◆ビーチテニス 砂上をコートにパドルと呼ばれるラケットで行う競技。ボールはバウンドさせず空中でラリーをしながら得点を取り合う。得点方式はテニスと同じで弾まないノンプレッシャーボールを使う。競技人口は3万人とされ、ブラジルが発祥地。現在はイタリア、スペイン、米国などでテレビ中継されるほど人気。日本では08年12月に日本ビーチテニス協会(JBTA、山田眞幹会長)が発足し、同年から国際連盟公認の国内ツアーが行われている。

◆萩本 愛里(はぎもと・あいり)1986年12月26日、東京・立川市生まれ。24歳。東京立正高卒。日大を2年で退学し、20歳で日本テニス協会のプロ登録選手に。硬式テニスでの主な戦績は国内の国際大会でのダブルスで5度優勝。ビーチテニスは09年シーズンから始めた。165センチ、52キロ。